

他科の先生に
知って欲しい

豆知識・・・小児科編⑩

小児整形外科医からのメッセージ

旭川荘療育・医療センター 整形外科 青木 清



ポイント

- 1) 成長痛や歩行障害の鑑別診断はたくさんあります
- 2) 膝周辺を痛がる場合は、股関節もチェック!
- 3) げっぷをする時の開排位抱っこで股関節脱臼を予防しましょう

小児整形は、早期発見と早期治療がとても重要な領域であり、O脚やX脚、内反足などの下肢変形や、いわゆる成長痛との鑑別を必要とする様々な疾患を対象とします。成長痛と言われた子どもの5人に1人は原因が後で分かったという報告もあり、単純性股関節炎(かぜの影響などで股関節液が増える状態)やペルテス病、大腿骨頭すべり症などの股関節疾患をはじめ、骨肉腫(膝周辺に起こりやすい)、白血病など命にかかわる病気の可能性もあるため、下肢の痛みが続き、歩き方が気になる時には、ご相談ください。Hiltonの法則(いわゆる「放散痛」)のため、股関節疾患なのに、太もも～膝のあたりを痛がることが多いので、あぐらの左右差などがあれば、たとえ膝を痛がっていても、股関節の超音波検査や2方向のX線検査(側面像でペルテス病や大腿骨頭すべり症は分かりやすい!)をお勧めします。

股関節脱臼は、歩き出してからも念頭におくべき疾患です。日本で2011～13年に行われた調査では、1,295名の股関節脱臼が報告され、うち199名(15%)は1歳を過ぎてから診断されています。痛みがないことがほとんどで、特に両側脱臼の場合は、体の左右差が少なく、低身長として治療を受けていることがあるので、家庭、1歳半・3歳健診、そして、学校での運動器健診でも、横から見た姿勢(腰椎の前わんとでん部の突出)に注意が必要です。

乳児健診では、股関節開排制限があれば整形外科医による二次検診へ紹介となります。現在は、股関節開排制限がなくても、①大腿またはそけい部におけるしわの左右差、②家族歴、③女兒、④骨盤位分娩の4つのうち2つ以上あれば紹介することが推奨されています。その際には、紹介状の雛形(日本小児整形外科学会のホームページ(<http://www.jpoo.org/>)「公開資料」からダウンロード可能)が便利です。

股関節脱臼は寒い時期に生まれた子どもに多く、服などをぐるぐる巻く環境は脱臼しやすいため、予防には薄着で下肢、特に股関節が自由に動くことが大切です。また、向き癖があると反対側が脱臼しやすいので、生まれた日から、げっぷをする時などに股関節(特に向き癖の反対側)を開いた状態での縦抱き(写真参照)がお勧めです。出産前教室や、出生後の育児指導に股関節脱臼予防パンフレット(こちらも「公開資料」からダウンロード可能)をご活用ください。

乳児股関節二次検診紹介状

(日本小児整形外科学会推奨様式)

紹介先医療機関： _____

_____ 先生 御侍史

紹介児氏名： _____ (男・女) (平成 年 月 日生： 月)

住所： _____

【一次検診結果(推奨項目)】

- ①股関節開排制限(右・左)
- ②大腿皮膚溝または鼠径皮膚溝の非対称
- ③家族歴(血縁者の股関節疾患： _____)
- ④女児
- ⑤骨盤位分挽(帝王切開時の胎位を含む)
- 一次検診医の判断
- 保護者の精査希望

二次検診への紹介について： ①開排制限が陽性であれば紹介する
②、③、④、⑤のうち2つ以上あれば紹介する
一次検診医の判断や保護者の精査希望も配慮する

上記の通り、日本整形外科学会・日本小児整形外科学会の紹介基準に該当しましたのでご精査の程、宜しく願い申し上げます。

年 月 日

_____ 病院 科 _____ 保健所/市・区・町・村

担当医師： _____

(以下に記入しご返信頂くか、貴院所定の返信用紙をお使い頂き、結果を必ずご返信ください)
返信欄：二次検診結果をご報告申し上げます。

- 異常なし
- 所見あり ⇒ 診断名：「□右、□左、□両側」 □脱臼、□亜脱臼、□白蓋形成不全、その他(_____)
- 経過観察いたします
- 治療(_____) 開始いたします

二次検診施設： _____ 科

担当医師： _____



開排位抱っこ

紹介状

一赤ちゃんが股関節脱臼にならないように注意しましょう一



* 生後の赤ちゃんの扱い方が大切です！

★「股関節脱臼予防と早期発見」アニメーション動画
「赤ちゃんの病気、股関節脱臼」で検索できます。

「先天性股関節脱臼(発育性股関節形成不全)」は脚の付け根の関節がはずれる病気です。

その発生はまれですが(1000人に1~3人)、抱き方やおむつの当て方など、赤ちゃんの扱い方を注意することにより、発生をさらに減少させ、また、悪化を防止することができます。

以下の1)~5)のうち、複数の項目があてはまる場合はとくに正しい扱い方を心がけ、必ず3~4か月の健診を受けるようにしましょう。

- 1) 向き癖がある2) 女の子(男の子より多い) 3) 家族に股関節の悪い人がいる4) 逆子(骨盤位)で生まれた5) 寒い地域や時期(11月~3月)に生まれた(脚を伸ばした状態で衣服でくるんでしまうため)

いつも顔が同じ方ばかり向いている「向き癖」は、向いている側の反対の脚がしばしば立て膝姿勢となってしまう、これが股関節の脱臼を誘発することがあります。

赤ちゃんの脚は、両膝と股関節が十分曲がったM字型で、外側に開いてよく動かしているのが好ましく(図1)、立て膝姿勢をとったり、脚が内側に倒れた姿勢をとったりすると(図2)、股関節が徐々に脱臼して行くことがあります。

両脚がM字型に開かず伸ばされたような姿勢も同様で、要注意とされています(図3)。

- 歩き始めるまで、次の点に注意しましょう-

仰向けで寝ている時は、M字型開脚を基本に自由な運動を

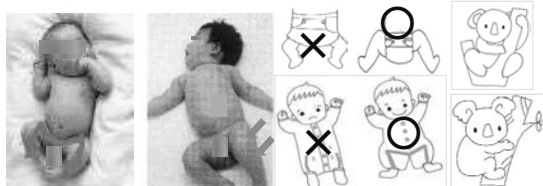
両膝と股関節を曲げてM字型に開脚した状態を基本として(図1)、自由に脚を動かせる環境をつくりましょう。両脚を外から締めつけて脚が伸ばされるような、きついオムツや洋服はさげましょう(図3)。

抱っこは、正面抱き「コアラ抱っこ」をしましょう

赤ちゃんを正面から抱くと、両膝と股関節が曲がったM字型開脚でお母さん(お父さん)の胸にしがみつく形になります。この正しい抱き方は、あたくもコアラが木につかまった形であることから「コアラ抱っこ」とも呼ばれています(図4)。同様に、両膝と股関節がM字型に曲がって使える「正面抱き用の抱っこひも」の使用も問題ありません(図5)。横抱きのスリングは開脚の姿勢がとれず、また、両脚が伸ばされる危険もあるため、注意が必要です(図6)。

向き癖がある場合は、反対側の脚の姿勢に注意しましょう

向き癖方向と反対側の脚が立て膝姿勢にならず、外側に開脚するような環境を作ってあげるよう留意しましょう。赤ちゃんには常に向き癖の反対側から話しかける、向き癖側の頭から身体までをバスタオルやマットを利用して少し持ち上げる(図7)などの方法が提唱されています。それぞれの赤ちゃんに合った方法を工夫してみましょう。



(図1) 好ましい姿勢:両脚をM字型に曲げて開き、左脚が立て膝内倒れになっている (図2) 右への向き癖:両脚が十分曲がりM字型をしている (利用したコアラ抱っこは外側がきついと脚が伸びてしまう) (注:首が座るまでは必ず頭部を支えてあげましょう) (図3) 好ましいオムツや洋服:両脚が十分曲がりM字型に曲げる余裕がある (図4) コアラの姿勢とコアラ抱っこ: (図5) 抱っこひも (図6) 横抱きのスリングは開脚の姿勢がとれず、また、両脚が伸ばされる危険もあるため、注意が必要です(図6) (図7) 右への向き癖の場合、右側の頭~身体を少し持ち上げて斜めに立て、左脚が外側に倒れて開くように工夫する。

* 1か月と3~4か月の健診でチェックを受け、異常を疑われた場合は整形外科を受診することになりますが、気になる点がある時はいつでも整形外科を受診下さい。

(日本整形外科学会、日本小児整形外科学会)

予防パンフレット